

## オンライン授業<sup>(1)</sup>下での反転授業の試み

宮内 俊慈

### 要旨

関西外国語大学留学生別科（以後、本学別科）は、2020 年の春学期、通常通りの教室活動でスタートしたが、新型コロナウイルス感染の拡大とともに、学期途中で急遽リモートクラス<sup>(1)</sup>へと切替えられた。それ以降、本学別科ではリモートでのオンライン授業が継続されており、2022 年の春学期もオンラインで授業をすることが決定された。そんな状況の中、各コースの教員はシラバスの変更を余儀なくされた。日本語中級後半クラスである日本語総合クラスレベル 6（以後、JPN6）では、リモートクラスへの移行時に急遽作成した文法解説の YouTube ビデオを発展させ、全学習項目のビデオクリップを作成した上で 2020 年秋学期より「反転授業」を実施している。本稿では、それ以降 3 回に渡る「反転授業」の成果と課題について報告したい。

【キーワード】 オンライン授業、リモートクラス、反転授業

### 1. はじめに

本学別科では、2020 年春学期も通常通り対面式でクラスが始まったが、2 月 27 日文科省通達後、急遽、翌週から対面式をやめ 2 週間オンラインクラスに切り替えることに決めた。そのうち帰国する留学生も増え、日本の感染状況も悪化し対面式に戻れる可能性がなくなり、春休み明けから全面リモートクラスに移行した。留学生の半数は帰国したがその多くが履修を継続し、日本に残った学生もリモートクラスを取り、大半の学生が日本語クラスを修了する結果となった。そして、同年の秋学期から通期でリモートでのオンライン授業を実施することを決定し、それ以降、2021 年の秋学期までオンライン授業を継続してきた。さらに、2022 年の春学期もオンラインでの授業を続けることが決定された。

そうした中、各日本語クラスは対面授業時のシラバスの変更が余儀なくされたが

JPN6 では、「反転授業」の形態で授業をすることとした。

「反転授業」(Flipped Classroom)とは、それまでも概念としては存在していたが、本格的に注目されるようになったのは Johnathan Bergmann と Aaron Sams (2012)が中等教育において自身の講義を録画し、それを生徒に授業前の予習として視聴させ、授業では課題の質疑応答や理解度チェックなどの活動を行うクラスを「反転授業 (Flipped Classroom)」と呼んだことからである。彼らは、「反転授業(Flipped Classroom)」の基本的な概念を「Basically the concept of a flipped class is this: that which is traditionally done in class is now done at home, and that which is traditionally done as homework is now completed in class.」(Bergmann & Sams 2012)と述べている。つまり、従来のクラスでは授業でやってきたことを宿題として行い、逆に宿題としてやってきたことを授業でやるということである。「反転授業」は日本語教育での実践例は多くはないが、日本でも初等教育から高等教育にいたるまで、様々な分野で「アクティブ・ラーニング」の一手法として注目されている(古川・手塚 2016;岩崎・大橋 2018;水谷・高井 2015)。

本稿では、2020 年の秋学期以降、JPN6で行っている「反転授業」の実践方法とその効果、および課題についての報告を行う。

## 2. リモートの日本語中級後半クラス (JPN6) の概要

JPN6 のリモートクラスは、時差の関係から、午前 (9:00 - 10:30、もしくは、10:45-12:15) が主に北米を対象にしたクラスで、午後 (15:00 - 16:30、もしくは、16:40 - 18:10) が主にヨーロッパを対象にしたクラスとなっている。JPN6 の 2020 秋学期から 2021 年秋学期間の学生数はコース修了者の実績で表 1 の通りである。数名ではあるが、出身国にかかわらず日本国内で授業を受けている学生もいる。

表 1. JPN6 のリモートクラスの修了者数

	午前	午後	合計
2020 年秋学期	8	5	13
2021 年春学期	4	6	10
2021 年秋学期	10	8	18

このクラスでは、シラバスに図 1.のような 5 つの目標を挙げて活動を行っている。

また、教科書は市販教材ではなく本校教員により作成された独自教材としてのパケット(高屋敷 2012)をアップロードし、使用している。

<p>◆<sup>もくひょう</sup>目標:</p>	
1.	<p><sup>じょうきゅう</sup>上級レベル(日本語能力試験 N1)に行くために<sup>のうりよく</sup>中級後期(日本語能力試験 N2)のアカデミッ<sup>こい</sup>ックな文型(sentence pattern)・語彙(vocabulary)を学ぶ。また、読める漢字も増やしていく。</p>
2.	<p><sup>はつびょう</sup>ディスカッションや<sup>せつめい</sup>発表で、日本語で意見を言ったり、説明したりできるようになる。</p>
3.	<p>ニュースやテレビ番組、映画で使われる<sup>しぜん</sup>自然な日本語を理解し、いろいろな話題について<sup>ぎろん</sup>議論できるようになる。</p>
4.	<p><sup>ひょう</sup>表や<sup>せつめい</sup>グラフを見ながら、説明したり<sup>はつびょう</sup>発表したりできるようになる。</p>
5.	<p><u>日本語</u>だけで<sup>か</sup>言い換えたり、考えたりできるようになる。</p>

図 1 JPN6 のシラバスの抜粋

### 3. JPN6 クラスの通常時の活動内容とリモート授業時の対応

JPN6 クラスにおいて通常の対面式授業時に行っている活動内容を次の 9 項目に分けて、それぞれの活動のリモート授業時の対応をまとめたものが表 2.である。

表 2. 対面授業時とリモート授業時のクラス活動の対応

対面授業時の活動内容	リモート授業時の形態
(1) 文型解説	YouTube ビデオでのオンデマンド
(2) 会話練習	パケットの課題を提出した上で、Zoom の Breakout session を使ったペア (グループ) ワーク
(3) ディスカッション	学生二人がリーダーとなり、ディスカッションをリード
(4) 単語練習	パケットの単語練習のページを課題として Blackboard にアップロード
(5) プロジェクトワーク	Zoom クラスに参加した日本人学生にインタビューし、その結果を PPT で発表
(6) スキット	中止
(7) 単語クイズ	授業時に行う Quizlet の自動生成テストの結果を Blackboard にアップロード
(8) ユニットテスト	Classmarker を利用したオンラインテストを実施
(9) 中間試験・期末試験	Classmarker を利用したオンラインテストを実施

「反転授業」化するための最大の特徴は、(1)において、日本語能力試験 N2 レベルの文型の解説を YouTube ビデオにし、授業参加前に視聴の上、課題をやってくるようにしたことである。教科書である JPN6 のパッケージには、文型解説のページがあるが、1つのユニットに対して大体 6～7 のターゲットの表現がある。その内の 2～3 の表現を 1 回 90 分の授業で練習していくのだが、通常時にはクラス内で文型の説明を行っているが、それを YouTube ビデオとして作成し、オンデマンドで視聴できるように本校で使用している LMS (Learning Management System) である Blackboard にアップロードを行った。JPN6 のパッケージにはまた、会話練習のページがあり (図 2 参照)、学生がこれらの会話が起こる場面やコンテキストを考えながら、ターゲットとなる表現を使った会話文を作るという課題となっている。学生は、その会話を完成させてプリントアウトしたページに書き込み (あるいは、ノートに書き)、それを Adobe Scan などのスキャナーアプリを使用してスキャンし Blackboard にアップロードするという課題が課される。これらの活動は、授業に参加する前にやってくることとなっている。

1. A: 新しいドーナツ屋、どうだった? B: うん、_____とおり、_____よ。 as we heard
2. A: 沖縄(おきなわ)に行ったそうですね。どうでしたか。 B: ええ、_____とおり、_____! (just) as I expected (expect: 予想(よそう)する)
3. A: すみません、このコピー機(き)、初めて、使うんですけど・・・。 B: じゃあ、_____とおりに、 _____。
4. A: _____さんの新しい恋人(こいびと)、どんな人でしたか? B: _____。
5. あなたの意見を教えてください。 Q: 大阪/関西外大/YUI/ホストファミリーは、どうだった? A: _____とおり、_____。

図 2 JPN6 のパッケージの会話練習課題の例

オンライン授業時には、そのやってきた課題に基づき Zoom の breakout session でペア、もしくは3人で会話練習を行い、その後にクラス全体で発表するという形態で進行する。教師は、breakout session 時、および発表時に会話の想定場面が適切に理解されているか、文法的誤りを犯していないかなどの観点から、個人、または、クラス全員に指導を行う。対面授業時には、この文型解説と会話練習を全て授業の中で行っていた。

また、(3)は、学生主導のディスカッションである。JPN6 のパッケージは、ユニット毎にトピックがあり、各ユニットの授業の最終日に学生二人がリーダーとなってディスカッションを行っている。クラスの人数によっては、リーダーが一人の場合もあるが、二人がリーダーになる場合は、遠隔地同士のリーダーが協働してプレゼンテーション資料（パワーポイント）を作成する必要がある。

(4)の単語練習は、パッケージにある単語練習の課題の答えを会話練習の課題と同様にスキャンアプリでスキャンして Blackboard へアップロードする課題である。学生は会話文の中でどういう言葉を使うべきなのかをコンテキストを理解した上でないと正解に至らないという形の練習になっている。また、動詞などでは活用形の変化も考慮しなければならない。宿題であると同時に、授業中も発表して正誤の確認を行う。

II. 下の言葉を使って、次の会話を完成させなさい。必要なら形を変えなさい。

(～に)進出する にんち 認知する	りゅうこう びんかん 流行に敏感(な) ぎやく 逆に	ひつよう かたち (～に)向く ほんかくてき 本格的
-------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------

1. A: 回転寿司のお店は、米国にもたくさんあるよね。  
B: うん、米国の市場によく（ ）いるよね。
2. A: 日本の首相(prime minister)って、安倍晋三だったよね？  
B: うん。でも、アメリカの大統領に比べて、  
世界的にそんなに（ ）いないね。
3. A: 大阪に来て、もうお好み焼き、食べた？  
B: うん、もちろん。大阪の（ ）お好み焼きは最高だと思うよ。
4. A: Bさんの妹って、いつも新しい服を着ているし、とてもおしゃれだよね。  
B: うん、うちの妹は新しい物を買うのが大好きで、（ ）んだよ。

図3 JPN6 のパッケージの単語練習課題の例

(5)のプロジェクトワークは、学生たちが自分の好きなトピックでアンケートを作成し、日本人学生にそのアンケートを使ってインタビューする活動で、アンケート結果は、グラフにして PPT を使って発表することになっている。この活動については、学生が日本に留学している時には授業時間外で本校日本人学生にインタビューするように指示したが、リモートクラスでは Zoom クラスに日本人学生を招待し、Zoom の breakout session を利用してインタビューさせることとした。

(6)のスキットは、遠隔地同士の学生がスクリプトを協働して作成することの困難さや Zoom クラスで一緒に演技することの困難さを考慮し、オンライン授業時には中止することとした。

(7)の単語クイズについては、Quizlet という Flashcard アプリの中のテスト機能を使って自動生成された単語テストの結果をレポートとして提出させた。授業時間中にテストの生成と結果のレポートをアップロードさせるようにした。

8/9/2021 Test: 日本語 6 UNIT1 (名詞: テスト用) | Quizlet

NOME \_\_\_\_\_

**10 domande a scelta multipla**

1. (N) weapon

- ☐ 親戚(しんせき)
- ☐ 機能(きのう)
- ☒ 武器(ぶき)
- ☐ 既読(きどく)

2. (N) function

- ☐ 中毒(ちゅうどく)
- ☒ 機能(きのう)
- ☐ 情報(じょうほう)

図 4 提出された Quizlet の単語テストのレポートの一部

(8)のユニットテスト、(9)の中間試験と期末試験は、ClassMarker というウェブベースのクイズ作成システムを使ってオンラインテストを実施した。テストは、モバイル端末（大体の場合は、スマートフォン）と PC の二つを使用し、モバイル端末側で PC をモニターしながら受験させるようにし、カンニングを避けるように工夫をした。

#### 4. 「反転授業」実施の効果

「反転授業」の事例は、アメリカが先行しているが、日本においても様々な研究事例が報告されており（重田 2014）、その効果についても第一に「生徒の学習時間を実質的に増加させる」、第二に「学んだ知識を使う機会を増やす」、第三に「学習進度を早めることも可能」などとされている。

第一の点に関しては、JPN6 のコースでも全く同様の状況であった。これまでの対面授業時には、文型説明は全て教室で行っていた。従って、学生は、教室に来て初めてターゲットの表現を見聞きし、説明を受け、その後やっと練習に入るといった形になる。しかし、「反転授業」の形態にしてからは、事前に文型説明のビデオを視聴し（1 つの表現につき 10 分程度）、課題の説明のビデオを見て（1 つの課題につき 5 分程度）、その後、その表現に関する課題をしなくてはならない（人によって必要な時間は異なるが、長くても 1 つの表現につき 15 分程度）。つまり、一回 90 分の授業に参加する前に、1 つの新規表現につき 30 分程度の予習が必須となる。一回の授業で 2～3 の新規表現を取り上げているので、1 時間から 1 時間半の予備学習をしてから、授業に臨むことになる。もちろん、こうした事前準備をせずに授業に参加してくる学生もいるが、やってこなければクラスメートとのペアワークでスムーズに活動ができない、発表するときに積極的に発言ができず、発表者に付与される performance points がもらえない、などのプレッシャーがあるので、現在までのところ 8 割から 9 割程度は宿題をやっている。

第二の点についても、いままで説明に使っていた一方的に聞いている時間を会話練習に回しているため、新規の表現を使う機会を増やすことにつながっていると言えるだろう。

第三の点に関しては、JPN6 では対面授業時より進度を早めるという操作はしていないが、説明をクラスでやっていた時には、質問や解説に予定以上の時間を使ってしまい、練習の時間を充分確保することが困難な場合があった。しかし、「反転授業」

形式にしてからは、授業をほぼプラン通りに進められるようになり、学習進度に遅れを出さないようになった。

## 5. 「反転授業」に対する評価

授業評価は、一般的な授業後評価は実施しているが、特に「反転授業」についての評価はこれまでやってこなかった。しかし、JPN6 では、継続的に独自教科書であるパケットについての評価を長年に渡り実施しており、それによってある程度、リモート授業時のクラス評価を推定することができる。

### 5.1 JPN6 のパケットに対するアンケート調査

本学別科においては、2008 年秋学期より JPN6 のメインテキストを独自に開発し使用してきた。開発は、本校教員の高屋敷（2012）が行い、モジュール型教材が採用された（高屋敷 2013）。モジュール型教材というのは、岡崎（1989）によれば、「教科書のように特定の順序に沿って一つ一つの課を学習するタイプの教材とは違い、学習者が既に学習し終わっている項目から一定程度独立して使えるようにした教材」のことである。JPN6 のパケットには、1 学期間で JLPT の N2 レベルの新しい文型を学習するモジュール化された 6 つユニットが含まれている。それぞれのユニットは、独立したトピックがあり、学生のニーズや関心に合わせて毎年のように新しいトピックを採用し、6 つのユニットの内の人気の低いものを差し替えてきた。そのために、各学期の最後には学生に対してアンケート調査を行い、JPN6 のパケットについての評価を継続して行っている。2020 年のリモート授業への移行後は、パケットの差し替えは中断しているが、このアンケート調査は継続している。

アンケート調査は、それまでの紙ベースの調査と同じく、教科書全体に対する質問（3 問）と各ユニットに対する評価（14 問 x 6 ユニット = 72 問）があり、全 87 問ある。全体的な質問としては、「教科書(Packets)は全体的にいいと思う」かどうか、今後「取り上げて欲しいトピック」は何か、さらに、JPN6 の教科書に対する「Free Comment」を尋ね、ユニット毎の項目としては、取り上げられている「トピックは面白いと思う」かどうか、ダイアログの内容、長さ、難しさ、語彙の多さ、難しさ、練習内容、表現説明の内容、聞き取り練習の内容など 14 項目に渡って詳細な質問となっている。これらの質問に対して、学期の終了間際に Google Forms のリンクにアクセスし、アン



ケートに回答することを促した。名前、学籍番号、メールアドレスなどの個人が特定できるような情報の入力はしないように配慮した。この期間 JPN6 には、累計で 50 名以上の学生が在籍していたが、その内 47 名のデータを収集することができた。

### 5.1.1 「表現の説明」についてのアンケート結果

この PACKET に対するアンケート調査の中で、本稿の「反転授業」と関連していると思われる質問項目が 2 つある。一つは、「表現の説明について」ともう一つが、「聞き取り練習」についてである。「表現の説明」のページが PACKET の中にあるのだが、対面授業時は、授業時間中に解説を行っていたために、クラスに来て初めてそのページを見るという学生もいたものと思われる。一方、「反転授業」を採用してからは、事前にそのページを読むと共に解説の YouTube ビデオクリップを視聴し、その上で PACKET の課題をやっけてこなくてはならない。1 回 90 分の授業中に 2～3 の新規表現の練習をするため、最低でも 90 分程度の事前学習時間が必要となる。それだけ、PACKET の読み込みも深くなるというわけである。その「表現の説明の良し悪し」について聞いたアンケートの結果のグラフが図 5 である。

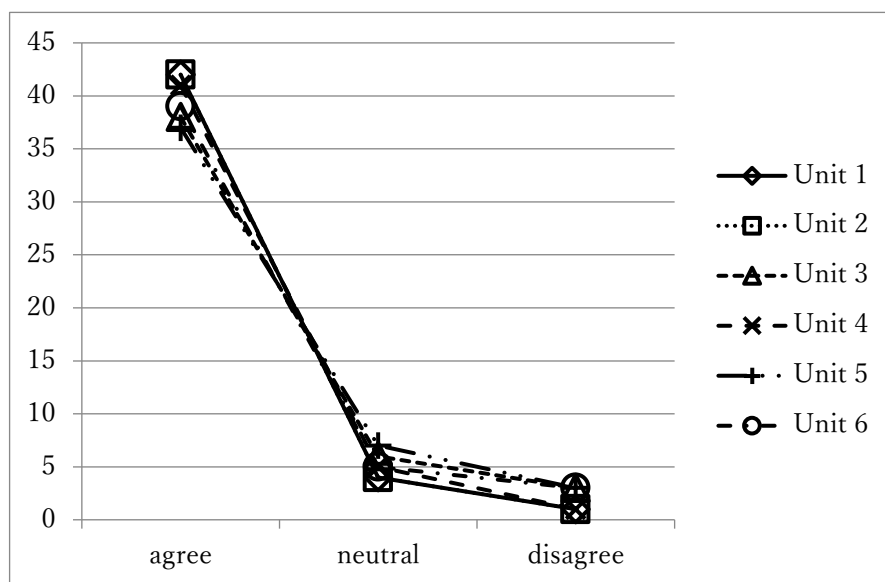


図 5 「表現の説明の良し悪し」に対する評価の比較（オンライン授業下）

ここでは、「表現の説明は、満足できる」という意見に対して“agree”が最低でも Unit

5 の 78.7% (47 名中 37 名)、また、“disagree”が全てのユニットに対して 6.4% (47 名中 3 名) 以下とかなり良好な評価が得られた。一方、対面授業時の同様の調査 (宮内 2018) では、“agree”が最低で 66.7% (24 名中 16 名)、また、“disagree”が全てのユニットに対して 12.5% (24 名中 3 名) という結果であった (図 6)。パケットの説明内容は変わっておらず、同じ教員の説明が教室内から授業外のビデオに変わっただけであることを考えれば、この満足度の向上は「反転授業」化したことによるものだと考えて差し支えなさそうである。パケットによる説明、ビデオによる解説、課題の遂行、授業中の会話練習、といった積み重ねによって学習が深化したために満足度が上昇したと推測できる。

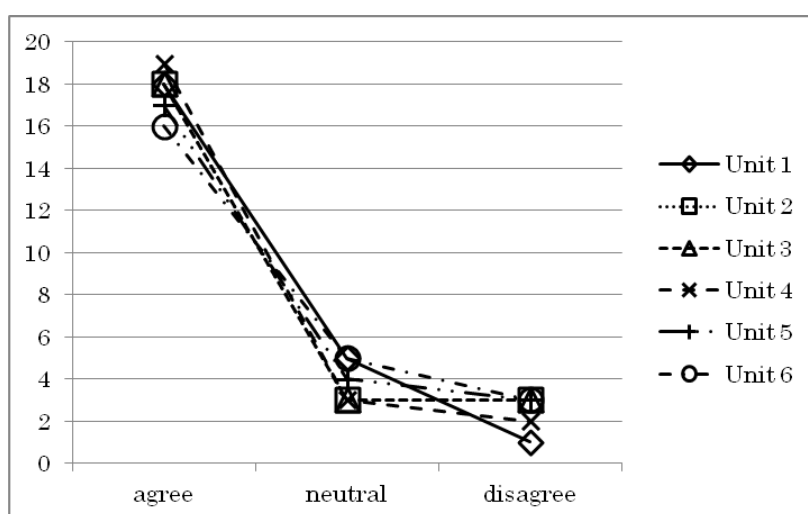


図 6 「表現の説明の良し悪し」に対する評価の比較 (対面授業時)

### 5.1.2 「聞き取り練習」についてのアンケート結果

聞き取り練習は、ダイアログを録音したものを学生に聞かせ、空欄を聞き取って埋めていくというディクテーションの練習をクラスで実施したり、宿題として課し学生の自主学習を促すためのパートである。アンケートでは、「練習の効果」(質問 14)、について尋ねている項目がある。「聞き取り練習の効果」に対する評価のユニット毎の比較を表すグラフが図 7 である。

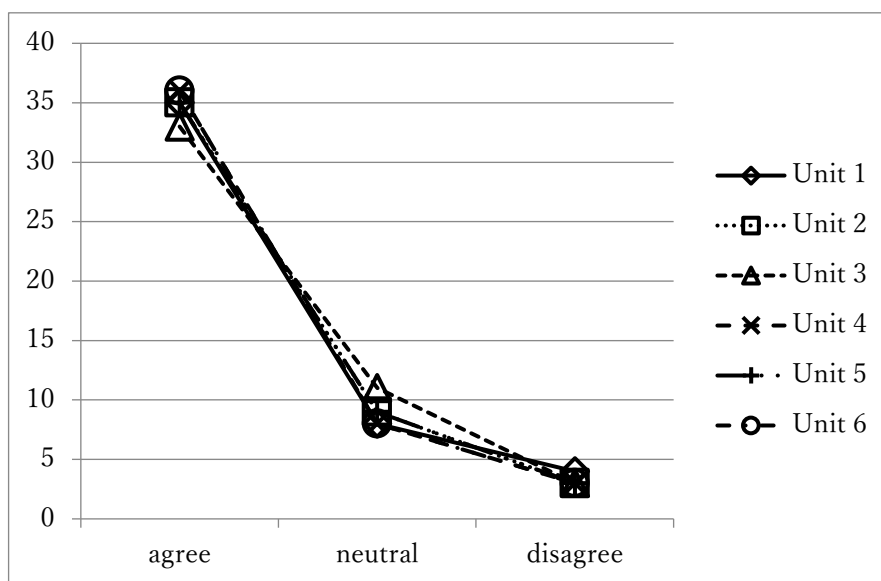


図7 「聞き取り練習の効果」に対する評価の比較

アンケートは、「聞き取り練習は効果があると思う」に対する評価となっているが、“agree”の割合は、最低が Unit 3 で 70.2% (47 名中 33 名)、“disagree”の最高が Unit 1 の 8.5% (47 名中 4 名) であった。極めて高い満足度であるとは言えないものの、決して低い数値ではないと言えるだろう。そして、この項目は、これまでの対面授業時の調査では満足度がかなり低かった（高くて 45.8% (24 名中 11 名) (宮内 2018)）。また、満足度が低い分析として「授業中に聞き取り練習の時間がなかなか取れず、学生の自習に任せる場合が多くなっていることが、その主な原因」(宮内 2017) であるとして、「教科書そのものの問題ではなく、授業計画の問題に帰する」(宮内 2018) と結論づけたが、オンライン授業になったから特別に時間を増やしたというわけではない。満足度が改善した理由として考えられるのは、「反転授業」による「文型解説」のビデオ視聴にあるということである。もちろんアンケートは、ダイアログの聞き取り練習の効果について尋ねていて「文型解説」の聞き取りがどれほどの効果があるとは聞いていないが、学生にとっては、ほぼ *natural speed* で行われる日本語による「文型解説」の聞き取りが「聞き取り練習」に該当すると感じて不思議ではない。そして、満足度が高いことから言えば、「文型解説」の聞き取りがうまくできて、「聞き取り能力」の向上にも役立っていると感じているのではないだろうか。

### 5.1.3 アンケートの中のコメント

パケットに対するアンケート調査の最後の項目は、パケットに対する「Free Comment」になっているのだが、その中には、単にパケットに対するコメントだけではなく授業そのものに対するコメントも散見される。授業形態に関連しているコメントを取り上げてみると、以下のようなものがある。

(1) I enjoyed the format of the packet with the lectures/ videos. It is interesting and easy to follow and fun to practice the example sentences with a speaking partner in class.

(2) zoom の時に表現を説明した方がいいと思います。

(3) I think the packets are very helpful along with the videos, however, the content can be a bit overwhelming as there is a lot of it. I found the constant homework a lot to keep up with and very stressful. It would be nice to have more examples in the packets for the grammar, as I found myself struggling to come up with examples/figuring out how to use the grammar for a few different structures throughout the different packets. Overall it was an interesting unit!

また、このパケットに対するアンケート調査以外に学期終了後の一般的な学生評価も行っている。その中で、授業のフォーマットに関連するコメントを取り上げてみると、以下のようなものがある。

(4) Other professors at Kansai Gaidai should follow Miyauchi sensei's format for remote learning. Compared to my and my friends' other classes, his was one of the easiest to learn from and engage in.

(5) Overall the unit was very interesting and the lecturer was very nice. I just wish it wasn't so content/homework heavy.

(1)と(3)のコメントは、パケットとビデオが一体となった「反転授業」形式を好意をもって受け入れているコメントである。しかし、(2)のようにやはり授業中に文型説明をやって欲しいというコメントもある。また、(4)も「反転授業」形式で学びが進んだという肯定的意見である。そして、当然ではあるが、(3)や(5)のように、宿題が大変すぎるというコメントも存在する。

## 6. 「反転授業」の課題

「反転授業」は、もちろん、いい点ばかりではなく、様々な課題も存在する。鈴木(2018)は、初級日本語授業における反転授業の実験授業を行い、事後のアンケート、

およびインタビュー調査の結果から、以下の 5 つのデメリットが示唆されたとしている。

- ① 予習時間が長くなると学習者に負担を与える
- ② 予習に教師がいないことを不安に感じる学習者の存在
- ③ 事前学習ビデオに媒介語がなければ初級学習者の理解は困難を伴う
- ④ 反転授業における評価方法が確立されていなければ学習者の不満を引き起こす
- ⑤ 反転授業になじまない学習スタイルを持つ学習者の存在

②～④の点に関しては、JPN6 が中級後半レベルの学生であること、ビデオを視聴し、課題をやってくることを宿題として評価することをシラバスに明記し、学生にも説明しておいたことから、今回の実践報告では問題にならなかったように思う。ただし、①に関しては、複数の学期中において学生からの相談があった。現在のリモートクラスの形態は、学生たちの自国からのアクセスになっている。したがって、アルバイト、パートタイムの仕事を学業と平行してやっていたり、自国の大学のコースワークがあったりして予習時間が十分に確保できないというような問題が発生している。中には、当コースが大変すぎて途中でコース修了を断念する学生も何人かいた。⑤に関しては、前節のアンケート調査で、(2)や(5)のコメントを残した学生は、こうした学生に当てはまるのかもしれない。

## 7. まとめと今後の課題

これまで見てきたように、授業を「反転授業」形式に変更したことにより実質的に学習時間が増加したことで教育効果は確実に上がっているということが言えよう。また、コメントを見ると、特に学習意欲のある学生にとっては満足度の高いコースになっていたことが伺われる。しかし、「反転授業」の直接の評価を実施した訳ではないので、授業形式に関しての学生の明確な評価は不明である。次学期もオンラインによるリモートクラスが継続されることが決定されているので、「反転授業」に関するより直接的な学生評価を収集したいと考えている。それ以降のことは未定であるが、いずれ対面授業時に戻った場合でも、「反転授業」を継続し、リモートクラス時の評価との比較を検討したいと思う。

## 注

- (1) 「リモート（授業）」と「オンライン（授業）」は、厳密には異なる。「リモート授業」と

は、遠隔地で授業を行うことであり、「オンライン授業」とは、ネットワークを利用して PC を使ってリアルタイムで授業を行うことである。従って、「リモート授業」は、必然的に「オンライン授業」となるが、「オンライン授業」は、必ずしも「リモート授業」とは限らない。同じ教室内で PC を使っていれば、「オンライン授業」だが「リモート授業」とは呼べない。本稿では、「リモート（授業）」を使用する場合は、基本的には日本国外の学生に対して日本から授業を行うことを意図しており、「オンライン（授業）」を使用する場合は、「対面授業（教室内での授業）」の対極にあるものということを意図している。

## 参考文献

- 岩崎公弥子・大橋陽 (2018) 「反転授業を活用した授業実践とその効果」『金城学院大学人文・社会科学研究所紀要』 22 号 pp.1-15.
- 岡崎敏雄 (1989) 『日本語教育の教材』 アルク
- 重田勝介 (2014) 「反転授業 ICT による教育改革の進展」情報管理 56(10) pp. 677-684.
- 鈴木靖代 (2018) 「オープン教材を活用した初級日本語授業における反転授業実践」『一橋大学国際教育センター 紀要』 9 号 pp.59 - 71.
- 高屋敷真人 (2012) 「モジュール型教材による中級後期日本語開発プロジェクト」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』 22 号 pp.119-133.
- 高屋敷真人 (2013) 「モジュール型教材を利用した中級日本語会話練習—教室内と教室外の言語活動の統合に向けて—」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』 23 号 pp.131-146.
- 古川智樹・手塚まゆ子 (2016) 「日本語教育における反転授業実践—上級学習者対象の文法教育において—」日本語教育 164、日本語教育学会、pp.126-141.
- 水谷晃三，高井久美子 (2015) 「プログラミング初学者を対象 にした動画教材による反転授業の実践と評価」情報処理学会研究報告 Vol.2015-CLE-17, No.34, pp. 1-8.
- 宮内俊慈 (2017) 「モジュール型中級後期教科書の学生による評価（４）」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』 27 号 pp.59-91.
- 宮内俊慈 (2018) 「モジュール型中級後期教科書の学生による評価（５）」『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』 28 号 pp.67-100.
- Bergmann, J. & Sams, A.(2012) Flip Your Classroom: Reach Every Student in Every Class Every Day. International Society for Technology in Education.(バーグマン, J・サムズ, A 上原裕美子(訳) (2014) 『反転授業』山内祐平・大浦弘樹 監修 オデッセイコミュニケーションズ), pp.40-47.

(smiyauc@kansai.ac.jp)